

発行
2016年
7月
1日

み と し ん ぶ ん
未杜新聞

地域通貨：未杜

61
号



あなたの参画が多様性を認め合うコミュニティづくりの輪へ
あなたの余剰を分かち合う優しさが丹波の自然をまもる輪へ
あなたのすてきな能力の提供がコミュニティの自立と共生へ



人権・環境・共生

発行所：NPO 法人丹波まちづくりプロジェクト事務局：〒669-3571 丹波市氷上町新郷 1574

編集人：赤井俊子

* Tel/Fax0795-82-0065 E-mail:syunko27@yahoo.co.jp URL:<http://mito.tamba.tv>

理事 長久信子さん

未杜の活動

丹波町づくりプロジェクトでは毎月の行事として第2水曜日に事務局会議、第3水曜日に未杜カフェを開催しています。未社会員さんはどちらの会にも自由に参加できます。特に事務局会議終了後のオープンカフェLETSに多くの会員さんに参加していただきたいと思います。

このオープンカフェLETSでは北海道大学大学院西部忠教授の著書「地域通貨」の輪読会をしています。地域通貨を理解するには最適な本だと思いますが「漢字が難しくて読めない、文章が理解出来ない…」と自分の学力の低さを嘆きながらも順番に読み進めます。その後「地域通貨」全般について、また私たちの発行する地域通貨・未杜について話し合います。内容は難しくても地域通貨が、資本性とコミュニティ性を備えもち、信頼や協同に基づいて流通する通貨であることを確信できました。それだけででも大きな収穫であると思っています。国家通貨（円）にコントロールされていることに対する私のささやかな抵抗としても地域通貨・未杜を活用しています。地域通貨を使って、物とサービスの余剰を流通させることは、人、環境にやさしいコミュニティをつくり、格差の穴埋め、生活の足しになり気持ちがとても豊かになります。この輪読会のよいところはどんな疑問も事務局から西部先生に連絡してもらってすぐ回答がもらえることです。

9月には未杜スタッフで一日限りのカフェを開きます。このカフェは勉強だけのカフェではなく実際にコーヒー、紅茶、ケーキなどをいただきながらおしゃべりも楽しめるカフェです。もちろん地域通貨・未杜が使えます。

この催しは、私の個人的願望であり「築百何十年のタイムスリップしたような我が家で、おしゃべりしたり、のんびりしたりするカフェがしたい…」を言葉にしていたところ未杜カフェとして叶えていただけることになったのです。このような機会を与えていただき感謝しています。

日ごろ事務局会議や未杜カフェに参加できない方も9月には是非お誘いあわせお越しください。もちろん未社会員以外の方も大歓迎です。未杜新聞9月の「予告」にも掲載されていますが場所：氷上町清住 420 長久邸（達身寺へ行くメイン通り左手）日時：9月21日10時～15時。みなさん是非お越し下さい。お待ちしております。

<予告>」7月未杜カフェ

音楽とランチで「ほっ」

日時：7月20日（水）午前10時」30分
場所：和風旅館「恵泉」（未杜起業会員）さん

♪*渡辺容行さん（明石市在住の未杜会員）
によるギター演奏

♪*未杜ひばり・・・共に歌おう

♪*恵泉スタッフ

○ランチ 1000円（コーヒー付き）

●要：事前申し込み

<8月未杜カフェ>

未杜カフェは休みます

<9月未杜カフェ>

ふるさと探訪・・・氷上町西地区

○コスモス鑑賞と達身寺見学

○当日は氷上町清住420 長久邸にて

「コスモスカフェ」をオープンします
コーヒーとケーキなどあります。

開催時間：10時～15時

花を愛でながら美味しいコーヒーをどうぞ

<報告>第14回法人総会

2016年4月23日開催



<4月未杜カフェ>

総会終了後開催

兵庫県立大学畑教授の講演



5月未杜カフェ

ふるさと探訪・・・黒井城址



林議員さんの案内で無事上ることができました。思ったより登りやすい道でした。頂上の見晴らしのよさにみんな感嘆の声。黒井城址がみんなに愛されているわけがよくわかりました。



こんな愛妻弁当を持参した会員さんにみんなの冷やかしの声が聞こえてきました。

第4回オープンカフェ「LETS」報告

*形式：輪読会 読本「地域通貨」ミネルヴァ書房

*編著者：西部忠（北海道大学経済学部研究科教授）

*輪読会で出された質問等を「○」で、西部先生のコメントを「◎」で表します。

○P19「5」には「希少性」という言葉が頻繁に出ていますが「希少性」とはどのようなことか説明して下さい。

◎希少性とは、需要（人々の欲求や欲望ではなく、価格がいくらなら、どの程度買いたいかということです）に対して供給が少ない状況を言います。

人間が一人しかいなければ、ほとんどすべてのものは豊富にあるので、希少ではありません。そのときの財は自由財です。自由財の価格はゼロです。

人口が増えたり、きれいな水がなくなったり、石油の埋蔵量が底をつくと、財がより希少になり、価格が上がります。言い換えると、希少性とは価格がゼロか、プラスかで決まります。価格が高くなるとより希少だと考えられます。

ただし、製造品の生産費用のようなコスト要因もあるので、価格は希少性だけで決まりません。

○未杜新聞60号表紙に由良ゆかりさんが地域通貨を使わない理由として

「未杜で生活することは無理だから」と書かれています。

やり取りの面倒さも加わり現会員も共感する内容ですが

どのようにクリアすればいいか先生のお考えを教えてください。

◎地域通貨で生活できるようになるには、生活必需品、特に食糧、衣料、エネルギー、医療、福祉、教育サービス、つまり、第一次産業と第三次産業が地域通貨で取引できなければなりませんし、また給料の一部を地域通貨で受け取ることができなければなりません。まだ、世界中の地域通貨でそのようなレベルに達したものはありません。ただ、これから資本主義が衰退し、少しずつ経済と社会を資本主義から引き離していく過程で、いろいろなタイプのお金が使われるようになるので、地域通貨もそうしたことを実現できる可能性が生まれるでしょう。資本主義の中でいますぐ「地域通貨で生活できない」のは当然ですが、気持ち的にも制度的にも将来に対する備えをするという意味で、地域通貨を考えるべきではないでしょうか。

寄付をしていただきありがとうございました。浄財をいただいた方々

- 丹波宿恵泉（起業会員）さん ○富田信孝さん ○柳田きく子さん
- 大野義昭さん ○西田正巳さん ○神崎みき子さん ○由良ゆかりさん
- 近藤まさ子さん

会員 紹介

今季号は柏原町の久須美さんです。

私は平成20年3月30日の未杜ユニバーサル交流パーティに初めて参加しました。

このパーティの「みんなで歌いましょう」でアコーディオン演奏を依頼されたからです。



パーティには神戸市立盲学校さんも参加されていました。盲学校の方に疲れを癒す「あんま」していただき、手作りのいちご大福や桜餅でわいわいがやがやとおしゃべりしてパーティはとても和やかでした。また野菜が未杜という地域通貨で販売されていました。未杜の説明を受けて入会しました。そして平成22年4月に会員の上本さん、大西さんの誘いをうけて歌う会をつくることになり「未杜ひばり」が誕生しました。月一回大きな声を出して楽しく歌っています。またその集まりの中で野菜などいろいろな物を持ち寄り通貨「未杜」を使って活発に活動しています。最近丹波市内の老人施設の慰問に出かけて「未杜ひばり」の皆さんの歌を聴いてもらっています。会員が歌うだけでなく施設の入居者の方々と童謡や懐メロを一緒に歌い交流を楽しんでいます。多くの方との出会いと絆を大切にこれからも楽しく活動していきたいと思えます。

未杜ひばり活動報告

老人施設、養護施設などから多くの依頼が来てい活発な活動が継続できています。練習にも自ずから力が入ります。



未杜企業会員「丹波の宿惠泉」さんの教育講演会のご案内

日時：7月10日（日）10時～13時30分

会場：丹波の宿惠泉（春日町平松400-1）

講師：株式会社ヴィタポート

丹波の宿惠泉代表取締役

水谷幹夫氏

家庭の教育・学校の教育・社会の教育

「大切なのは生きる力」